This Page Is Inserted by IFW Operations and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning documents will not correct images, please do not report the images to the Image Problem Mailbox.

*			
		,	
· ·			
	¥)		
	3	Q. 4	
· ·			

JP 354128274 A OCT 1979-

(54) RESIN-SEALED SEMICONDUCTOR DEVICE

(11) Kokai No. 54-128274 (43) 10.4 1979 (19) JP (21) Appl. No. 53-35509 (22) 3.29.1978 (71) HITACHI SEISAKUSHO K.K. (72) AKIRA MASUDA(1)

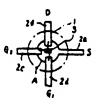
(52) JPC: 99(5)C22;99(5)C21

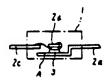
(51) Int. Cl². H01L23/30,H01L23/48

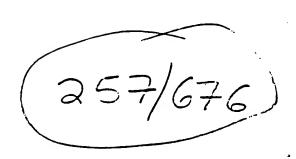
PURPOSE: To reduce the feedback capacity for the device to be used suitably at the high frequency region by forming the tip of the lead for earth into a disk shape with the semiconductor pellet provided at the center of the disk and then covering the

pellet and the tips of plural leads of the pellet.

CONSTITUTION: Tip A of lead 2a for source S is formed into a disk, and semiconductor pellet 3 is attached at the center of disk part A. Then lead 2b for drain D. lead 2c for 2nd gate G₂ and lead 2d for 1st gate G₁ are provided in three directions centering on pellet 3, and mold part 1 is formed covering over the tip parts of these leads as well as pellet 3. Here, the contact area is increased between part 1 and lead 2a for the source to be earthed, and the feedback capacity is reduced. Thus, the , device can be used suitably at the high frequency region.









19日本国特許庁(JP)

10特許出願公開

砂公開特許公報(A)

昭54—128274

DInt. Cl.2 H 01 L 23/30 H 01 L 23/48

識別記号 〇日本分類

99(5) C 22 99(5) C 21

7738-5F

庁内整理番号 ❹公開 昭和54年(1979)10月4日

7357-5F

発明の数 1 審查請求 未請求

(全 3 頁)

⑤樹脂封止型半導体装置

2)特 願 昭53-35509

昭53(1978) 3 月29日

②発 明 者 増田登

後出

高崎市西横手町111番地 株式 会社日立製作所高崎工場內

②発 明 者 平保夫

> 高崎市西横手町111番地 株式 会社日立製作所高崎工場内

⑪出 願 人 株式会社日立製作所

東京都千代田区丸の内一丁目 5

番1号

10代 理 人 弁理士 簿田利幸

発明の名称 製造針止型半導体機能

1. 少なくとも萎地増子として使用されるリード を含むりード群と、半導体素子とを有し、この 半導体素子とリード先通都とを樹脂材料によつ て対止してたる半導体装置にかいて、肩配接地 増子として使用される リードと前記者胎針止体 との無私面後を大きくすることによつて容量シ ールドを回つたことを特徴とする複数剣止型半 等体装置。

発明の評価な反明

本発明は半導体装置、特に樹脂材料によつて素 子電が対止された半導体装置(例えばレジンモー ルド選挙導体装置)に関する。

最近、第1四に示すようなレジンモールドフラ プトパフケージ費トランジスタが提案されている。 このトランジスタは常子甚をレジン等の側面材料 で対止した円筒形状の対止体(モールド)部1と、 煮子の電板に接続され、かつモールド部1の4方

に突出するりード2とからなる。 とのトランジス チの内部構造は例えば、第2回(4)(9)、又は第3回 (4)(4)のようになつている。

第2回はデニアルゲート避電界効果トランジス タ(以下単にデニアルゲートPETと称ナ)の内 部構造を示すものであり同歴(4)社平面図、同図(9) は正面面である。面中美郷1がモールド部であり、 2 =~2 dはリード、3は半導体ペンプトである。 このデニアルゲートPBTは高周皮特性が良いた めテレビジョンにかけるチューナのRP(高道放) アンプに用いられる。

第3国はパイポーラトランジスタの内部構造を 示するのであり、河線(s)は平面図、河図(s)は正面 国である。日中領線部1がモールド部、28~ 2dがリード、3は半導体ペンツトである。こと で、それぞれリード2mはコレクタ(C)、2bは エミプタ(E)、2dはペース(B)端子として使用 されるが、表りのリード2cは不使用娘子(NC) てある。 このようなパイポーラトランジスメも高 角度用として利用される。

かかる最近のトランツスタは剣止材料としてレ ツンを使用しているため、今迄のキャン剣止戦ト ランツスタ (電子部を絶縁材料を介して全異材料 で優つた構造のトランツスタ) 化比較して低価格 化が図れること、さら化は、モールド部1の何る アラットパッケーツ親とすると、いわゆる フラットパッケーツ親とするとにより、モール ド部底部から下方にリードを突出させる今次 ランツスタよりも、リード間の距離しを長くする ことができるため入。出力容量の減少化が関れる 等の特徴を有する。

ところで、このようなレジンモールド型トランジスタにもつては、滑瀬客食が例えば Q 1 5 P P にもなり、ヤツン対止型のもの (例えば Q 0 1 P P) に比し 1 0倍もの容量値を有することが利明した。これは、キャン対止型のものはキャン部を提集するような構造としているため対止部の序題容量を小さくできるのに対し、レジンモールド型にもつてはこのような容量シールドを行なつていたいため、モールド語での序題容量が大きくな

特別S3-128274(2) あことが展因と思われる。このため、レジンモールド雄のトランジスタを高周政刑として使用した場合、帰避客量が大きくなり客生発最等を生じ、 UHP帯、VHP帯の周波数値域での使用が不可 他になるという問題を有する。

本発明はかかる問題を解決するためになされた ものであり、その目的とするところは帰還容量を 減少せしめることのできる樹脂到止選半導体装置 を提供することにあり、他の目的は高頭放便域で の使用に返したレジンモールド型トランジスタを 提供することにある。

以下実施例により本名明を具体的に説明する。 第4回は、本発明をレクンモールド型デュアルゲー トアBTに進用した場合の一例を示す構造団であり、 問題(4)は平面図、同図(6)は正面図である。同図(4)に は、先端部ムが円板状に形成されたソース四角のリー ド2 a と、このソース用のサード2 a の先端円板部 人中央に取付けられた半導体ペレット3 と、この 半導体ペレット3を中心として3 万に配数される ドレイン四角のリード2 b、 気 2 ゲート(G_e)月の

第5回は本発明をパイポーラトランツスタに選用した場合の一例を示す構造圏であり、同図(4)には 平函図、同図(4)には、完 通感人が円板状に形成されたリード2 c (これは トランツスタの動作に関係のないリードN C であ

る)と、このサード2cの円収状先端部Aを中心 として3方に配設されるコレクタ(c)用のリード 2 8、エミフォ辺用のリード26、ペース四角の サード24と、コレクタ用サード28の先端艦広 紙に取付けられた半串はペレットる。及びこれら を対止するモールド部1(日中側収据)からなる トランジスタが示されている。そして、前記り一 ド26は同園(4) に示すように、先達器人が五字状 に折曲されて≫り、このL字状先端部Aが他のり 一ド28,2b,26の先端部高下に位置するよ うドモールド部1の底部ド記録される。また、コ レクタ用リードでもの低広先端部は前記リード・ 2cの円板状先端部Aの中央上部に位置するよう K尼亞されている。また、通常は不使用リード 2cの他路は接地される。 このようにして接地さ れるリード2cとモールド部との機能面積を大き くするととにより浮遊容量を小さくするととがで

以上説明した本発明によれば、デュアルゲート PBTにかいてはソース用菓子の先導部の面積を ",tt.

P:

25

+3

雅业

置さ

増さ

黑世

元.

特別昭54-128274(2) つれる。このため、レジンモー にまた高層成用として使用した できくなり音生発振等を生じ、 「の周波数量域での使用が不可 したする。

1題を解決するためになされた 1的とするところは帰還を重を ってきる資源対止原半導体経費 っち、他の目的は高端放便域で ンモールド型トランジスチを

本発明を具体的に設明する。 をレジンモールド型デュアルゲー)合の一例を示す構造的であり、 8(h)は正面圏である。同間(a)に たに形成されたソースの用のリー 用のリード2 a の先端円板部 た半減体ペレフト3 と、この 中心として3 方に配数される 2 b、第2ゲート(G。)用の

2 ¢の円収状先進部人を中心 れるコレクタ(c) 用のリード ひりードでも、ベース四月の クタ用リード2 4 の先連幅広 る体ペレット3、及びこれら 81 (図中無確認)からなる えている。そして、前記リー Fように、先帰留Aがし字状 このL字状先週部Aが他のリ 「の先週部軍下化位置するよ :部に配収される。また、コ) 塩広先週部は前記リード . の中央上部に位置するよう た、通常は不使用リード ・る。とのようにして最地さ ルド部との単独国旗を大き 容量を小さくすることがで

によれば、デュアルゲート ス用場子の先端部の面積を 大きくするとにより、また、パイポークトランツスタにかいては不使用掲子の先掲載の面積を大きくすることにより、共にセールド型との資産財産を大きなからモールド型とのでは、するととができる。すなわち、リード先組を受けるととができる。するというととなる。ちなみに、本銀発明者等の実験により止進のものと同一の値に抑えることができるというとが存られた。したがつて、かかるレジャールド型トランスタを高層成用として利用することが十分可能になる。

本見明は前記実施例に限定されない。例えば前記実施例では容量シールド部を円板形状としたが、 とれに限らず、モールド部との機能面積を大きく することができるような形状であればどのようを 形状であつてもよい。また、先端部が円板状形が ほされたリードは必ずしも使用時にかいて直接要 地される必要はなく、接地電位に近いような低い 定域に保たれるようになつていればよい。 特別相54-128274(3)

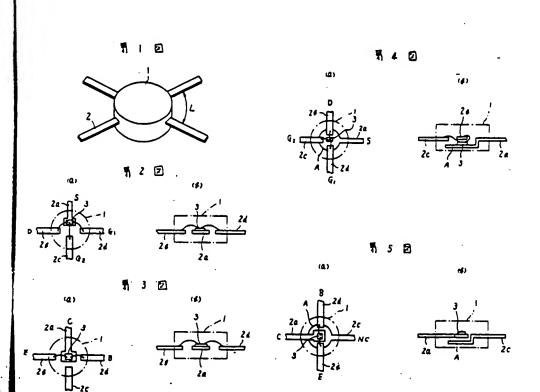
本発明はアラブトペプケージ数のものに限定されず、全てのレジンモールド点トランジスタに広く利用できる。

西面の簡単な説明

第1回はフラフトパフケージ型トランジスタの 構造を示す系被国、第2回はデュアルゲートFET の構造の一列を示すものであり同因(4)は平面図、 (4)は正面図、第3回はパイポーラトランジスタの 構造の一列を示すものであり同因(4)は平面図、同 図(4)は正面図、第4回は本発明をデュアルゲート PETに適用した場合の一列を示すものであり同 図(4)は平面図、同因(4)は正面図、第5回は本発明 をパイポーラトランジスタに適用した場合の一列 を示すものであり同図(4)は平面図、同図(4)は正面 図である。

1…モールド部、2、2 m~2 d…リード、3… ペレフト

代理人 弁理士 雇用知事



THIS PAGE BLAN! (USPTO)